

第15回
ナショナルバイオリソースプロジェクト「ゼブラフィッシュ」
運営会議議事録

日 時：2015年9月19日（土） 10：00～12：00

場 所：大阪大学医学部（吹田キャンパス）臨床棟4階階段横セミナー室

出席者：岡本仁・吉原良浩（理化学研究所 BSI）、川上浩一・酒井則良（国立遺伝学研究所）、東島眞一・高田慎治（岡崎統合バイオサイエンスセンター）、日比正彦（名古屋大学）、伊藤素行（千葉大学）、川原敦雄（山梨大学）、小林麻己人（筑波大学）、東海林亙（東北大学）、菊地裕（広島大学）、石谷太（九州大学）、平田普三（青山学院大学）、弥益恭（埼玉大学）、石岡亜季子（理化学研究所 BSI）

議題

1. 各施設からの運営状況（岡本、川上、東島）
2. 第4期に向けての審議

報告および審議

はじめに、委員長の日比より本会議の議題の説明があった。

1. 各施設からの運営状況

各運営機関の代表者より下記の点について報告があった。資料は事前にメールで委員に配布された。

- (1) 昨年度（2014年度）の収支決算
- (2) 今年度8月までの収支決算
- (3) 昨年度・今年度のNBRPに関する運営状況：系統数（増加分を含む）、分与数（分与先情報を含む）、凍結数、の報告
- (4) その他

各運営状況のポイントおよび審議

● 理研 BSI（岡本）

- (1) (2) (3) に関して、順調に事業が進んでいる旨、報告があった。

実費徴収の料金表改訂：企業等から多くの個体数のオーダーがあった際、ストックしている魚の数ではまかなえないため、新たに繁殖を行う必要が生じる。そのための作業にかかる人件費を算定し「繁殖代」として料金表に追加する旨、報告があった。

Tilling DNA サンプルの調整と輸送：Tilling ライブラリーの公開に向けて、DNA サンプルの濃度調整を行った後に基生研にサンプルを輸送した旨、報告があった。今年度内に Tilling ライブラリーを公開予定とした。

新体制について：今年度より AMED による新体制となった旨、説明があった。

● 遺伝研（川上）

(1) (2) (3) に関して、順調に事業が進んでいる旨、報告があった。

NBRP ゼブラフィッシュのウェブサイトと zTrap の連携について：NBRP ゼブラフィッシュのウェブサイトと zTrap の public page を連動させ、系統数を反映させることが出来るように改善をした旨、報告があった。

近交系 IM について：この近交系は大変貴重なため、絶えることのないように保存し、可能となり次第ゲノム情報も公開するよう要望があった。

● 岡崎統合バイオ（東島）

(1) (2) (3) に関して、順調に事業が進んでいる旨、報告があった。

収集について：CRISPR/Cas9 法によるノックインにより新規系統が作り出されている旨、報告があった。公開される系統について、従来の BAC を使った方法で作られた系統と、新たに CRISPR/Cas9 法によるノックインにより作られた系統のどちらであるか情報を掲載してほしいとの要望があった。

新しいゲノム編集技術の講習について：東島、川原によって開発された新しいゲノム編集技術は大変有用なため、講習会を開いてはどうかとの提案があった。コミュニティー外へも呼びかけることで、新規ユーザーの獲得に繋がることも期待される。まず、小型魚類研究会のコミュニティーミーティングにて提案し、コミュニティー内でのニーズを把握することとした。

● 2014 年度および 2015 年度の実績

2014 年度（2014.4 月 - 2014.3 月末）					
	収集系統数	保存系統数	提供系統数		
			国内	国外	合計
理研 BSI	122	4978	92	116	208
遺伝研	60	920	69	186	255
岡崎統合バイオ	3	55	1	12	13
合計	185	5953	162	314	476

2015 年度 (2015.4 月 - 2015.8 月末)					
	収集系統数	保存系統数	提供系統数		
			国内	国外	合計
理研 BSI	67	5041	35	23	58
遺伝研	30	950	61	65	126
岡崎統合バイオ	1	55	4	14	18
合計	97	6046	100	102	202

2. 第 4 期に向けての審議

今年度は NBRP ゼブラフィッシュ 第 3 期の 4 年目となる。今期の実績を形とするために、リソースが活用された論文情報が重要となるが、運営機関だけでは論文情報を探しきれないケースがある。そこで、論文情報の収集について、寄託者自身に寄託系統に関する論文情報をよく調べていただき、情報提供にご協力頂くようお願いがあった。また、リクエストが多く来るような系統を是非寄託して頂くようお願いがあった。小型魚類研究会のコミュニティーミーティングでも呼びかけを行うこととした。

また、近交系の確立は大きな成果であるため、今後は近交系を安定的に保存し、効果的に活用できる体制作りが望まれた。

第 4 期の体制について審議された結果、今まで通り 3 機関での実施体制を継続することで合意された。しかし、将来的には世代交代をふまえた体制の改変が必要となるため、来年度より、その準備を始めていくこととした。

また、次期以降では、ゼブラフィッシュの病気に詳しい専門家のアドバイスを受けられる環境が望ましいため、その準備を始めることとした。

→9 月 20 日小型魚類研究会のコミュニティーミーティングで下記の告知等を行った。

- ・ 各研究室で作出された系統を是非寄託して頂くよう呼びかけた。
- ・ 既に寄託した系統について、それが活用された論文情報を調査し、NBRP に情報提供して頂くよう呼びかけた。
- ・ 新しいゲノム編集技術の講習会について提案し、これを要望する人がどのくらいいるか調査した。また、講習会への要望を聞き、コミュニティー外の研究者への告知方法や他の講習会についての情報収集を行った。